

大丈夫よ！ お母さん！

教育コーディネーター 中西美沙子

（今回のテーマ）

冬の陽だまりの中で

季節はどんなときでも、足早に過ぎていきます。木枯らしが吹いています。風が水槨（みずなら）の枯葉を追いかけているのが見えます。時の移ろいが遊んでいるようです。「子どもと過ごすとき」も、季節のようにあつという間に過ぎてしまいます。子育ての頃を振り返ってみますと、「あんなことも、こんなこともしておけば良かった」と何時も思います。

家の近くに「ポツポ道」という遊歩道があります。国鉄の引き込み線の跡地を利用した小道です。冬になると山茶花や椿の花が咲き、道を縁取ります。

日差しが暖かく降りそそぐ頃になると、小さな子ども連れのお母さんの姿が見かけられます。幼い子は、どんなものにも興味を持ちます。傍らの草花、風に揺れる木の葉に目を向けます。椿の花が、ぽとりと落ちたり、メジロが花に蜜を吸いにきたり。そんなとき、子どもの言葉にならない声が、静かな道にやさしく響きます。

自然に囲まれたそのような「とき」を、子どもは思い出すことはないでしょう。でも自分を包んでいた豊かで、暖かさに満ちた感覚は、その子の一生を支え続けます。

子どもと一緒に何かをしたい。寒い季節になると、ふと思うことがあります。寒い季節の子どもの時代は、近所の子どもたちと一緒に遊び、どの路地にも子どもたちの声が流れていました。冬の寒い日の、「おしくらまんじゅう」。体と体を寄せ合って押し合う遊びからは、肌の温もりと近さが溢れていました。

時代は変わり、路地で遊ぶ子どもの姿は、もう見えません。豊かさとともに、子どもの生活も変わってきました。でも、子を思う母親の気持ちは、どんな時代も変わらないでしょう。

今の時代は、母親も子育てをしながら自分の人生を楽しむことができます。家の中に引きこもりがちになる冬。外とのつながりも薄くなります。そんな時には、何かに

熱中してみたくありませんね。レザークラフトや染色。絵や音楽を楽しむ。

子どもは面白いもので、「母親が熱心に行っていること」に興味を持ちます。「たのしそうだな」「ちよつとのぞいてみようかな」。幼稚園ぐらいになると、お手伝いのようなこともできるようになりますね。子どもと一緒に「何かをする」と、親子のコミュニケーションの基本ができます。言葉では形づけられないもの、体の感覚で結ばれる大切な感覚です。

「ギャルママ」なる母親がいます。その親子のファッションショーを、テレビで観たことがあります。雑誌やファッションメーカが演出した流行の洋服を着て、そのショーに彼女たちは参加していました。

「自分も美しく。子どももまた」がコンセプト。そのために彼女たちは、レトルトや安売りで「食費」を切り詰め、身なりに投資するのです。ここにも子どもと一緒に楽しむ母親の姿がありますが、しかし、どこか外側にだけ自分をアピールする自信のなさが見えますね。子育てが生む「安心の感覚」が、どこにも感じられないからです。

家の中で、子どもと過ごす時間は、かけがえのないもの。それは、「母親が子どもを見守る時間」だからです。安心があつて初めて子どもは、強く生きていくことができるのです。

窓の外では、冬の光が遊んでいます。すっかり葉を落とした木を見ると、そこには確かに、固い小さな蕾があるのです。

Profile

教育コーディネーター

中西美沙子

執筆・講演活動のかたわら、様々な部門の文化事業を展開する「(株)クリアシオン」の代表。文章教室「スコーレ」画廊「キューブ ブルー」「建築プロデュースまい」「食彩いわさか」ときわ薬局など。文章教室は書き方を教えるだけではなく、生き方や考える視野を学ぶところです。

☎ tel 053-456-3770

中西美沙子

検索

ピアノシモでね

中西美沙子 著

著書の「ピアノシモでね」(東京書籍)は、中日新聞に連載された人気コラム「つかまえて!ここ」をまとめたもの。同著には、親子の問題もいろいろ描かれています。(税込1,500円)

※お求めは浜松市内の谷島屋で。

